

日本語研修コース 平成10・11年度(第6期～第9期)報告書

長野ゆり・三浦香苗

はじめに

この報告書は、日本語研修コース第6期～第9期（平成10年度前期～平成11年度後期）に関するものである。第1期については『日本語研修コース第1期報告書』（1996）、第2期・第3期については『日本語研修コース 平成8年度報告書（第2期・第3期）』（1997）、第4期・第5期については『日本語研修コース 平成9年度報告書（第4期・第5期）』（1998）を見ていただきたい。

この報告書は、基本的には第6期から第9期までに共通する基本的な枠組みについて述べたものである。各期の具体的な運用状況、前学期に比しての相違点・変更点などは、【特徴点】として記した。

記述の構成は次のとおりである。

I. 日本語研修コースの概要

II. 教育内容と時間割構成

1. 日本語

2. 専門への橋渡し

2-1. コンピューター入門

2-2. 口頭発表プロジェクト

2-3. ドラマプロジェクト

3. 日本文化・日本事情・異文化交流

3-1. 日本人ボランティア・チューターとの時間（「日本・世界事情」）

3-2. ビデオ・歌・書道

3-3. ホームステイ・見学・ハイキング

4. コンサルテーション・カウンセリング

参考資料

資料1～12(研修生名簿 授業進度表 授業時間割)

I. 日本語研修コース(正式名:大学院入学前予備教育日本語研修コース)の概要

<対象>

文部省の国費外国人留学生のうち、北陸地区に配属される留学生で、年齢は35才未

満。定員は30名。

研究留学生と教員研修生の二種類がある。研究留学生は、日本の大学院で大学院生または研究生として研究活動を行う予定のものであり、教員研修生は、自国においては初等・中等・高等教育の現役教員で、日本の大学で学校教育に関する研究活動を行う予定の者である。

コース開始時の日本語のレベルは、原則としてゼロ初級。ときには中・上級の学生が混じることもあるが、大多数は、平仮名と挨拶言葉程度以外、日本語の学習歴を持たない者である。

【特徴点】

この報告書の中では、「日本語研修コース」を履修する留学生を、研究留学生・教員研修生ともに「研修生」と呼ぶことにする。6期～9期の研修生の氏名、研究留学生・教員研修生の別、国籍、研修コース修了後の進学先、専門分野については、末尾の資料「研修生名簿」を参照のこと。

自国ですでに日本語学歴を持ち、日本語のレベルが初級修了程度以上と認められる者については、金沢大学の全学の留学生を対象として開講されている「総合日本語コース」で学習してもらう。該当する研修生は学期始めに行われるプレースメントテストを受け、各自に適したレベルのクラスで学習する。「総合日本語コース」においては「B」が初級修了レベルであるので、プレースメントテストで「B」以上と認定された研修生は「総合日本語コース」で日本語を学習することになる。

ただし、この場合も、「専門への橋渡し」「日本事情・日本事情・異文化交流」の授業・活動にはできる限り参加する。また、Bクラスに行った学生も、研修コースの進度がBクラスの進度に追い付いた時点で、できる限り研修コースに復帰する。

このように配慮する理由は、無論まず第一に、「総合日本語コース」に行った研修生にも研修コースで提供する教育内容をなるべく多く享受してもらいたいからであるが、それだけではなく、彼等にも「同期の研修生」としての連帯感を持つ機会を与えたいからでもある。研修コースで学ぶ研修生たちは、慣れない日本でゼロから日本語を学び、殆ど全員が同じ学生寮に住み、1日6時間、共に日本語を勉強する。その「苦労をともにした」という連帯感は大きい。コース修了後、各々の専門分野に進んだ後も、研修コース時代の思い出は強烈な印象として残ることが多い。日本語を総合日本語コースで学ぶ研修生たちにも、その思い出をできるだけ共有してもらいたいと願い、可能な限り研修コースの授業・活動に参加するよう指導している。

日本語を総合日本語コースで学んだ研修生の数は、次のとおりである。

- 6期(平成10年度前期): 10名中2名
- 7期(平成10年度後期): 14名中4名
- 8期(平成11年度前期): 15名中4名
- 9期(平成11年度後期): 13名中5名(当初14名だった研修生のうち1名は、
医学部に所属を移した。)

<目的>

日本における日常生活及び研究活動に必要な日本語力を6ヶ月で集中的に習得させる。日本語能力級の3級程度を目指す。

<開講期間・授業日数>

1コースの期間は6ヶ月(17週間)、授業は週5日、1日4コマ(コマは90分)である。1年に2コース(前期:4月～10月、後期:10月～3月)が開講される。

詳細については資料の「授業進捗表」参照。

II. 教育内容と時間割構成

<教育内容>

本コースで提供する教育内容は、大きく分けて次の4つである。

- 1 日本語
- 2 専門への橋渡し
- 3 日本文化・日本事情・異文化交流
- 4 コンサルテーション・カウンセリング

<時間割構成>

上記の教育内容は、週の時間割の中でおおむね次のように実現されている。

1・2・3時限目は、原則として日本語の総合的学習にあてられる。

1・2時限目:発音・語彙・文法項目の学習。主教科書を1日1課のペースで進む。

原則として隔週水曜日の1時限目には、試験を行う。試験のない水曜日には、コンサルテーションを(コース開始後3～5回程度)行う。期によっては2時限目に文法解説の時間を設けた。

コース開始後8週間目頃から、「専門への橋渡し」として行われている「口頭発表プロジェクト」(9期は「ドラマプロジェクト」)のた

めに、週1～1.5コマをあてる。

3 時限目：文字学習（平仮名・片仮名・漢字）と、午前中に学習したことの応用練習による定着と発展。

4 時限目：曜日によって、また随時、次のような学習活動が行われる。

文法解説、ビデオ（日本語及び日本事情の学習）、読み練習、コンピューター、日本の歌、書道、日本人ボランティア学生との交流、など。

「口頭発表プロジェクト」発表会の数日前からは、3・4 限目もそのための作業・練習にあてられる。

次に、各教育内容とその実施方法を、もう少し詳しく述べる。

1. 日本語

<主教科書>

6・7期：『新日本語の基礎Ⅰ』『新日本語の基礎Ⅱ』（海外技術者研修協会編 1997 スリーエーネットワーク）本冊および翻訳・文法解説書各国語版

8・9期：『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』（スリーエーネットワーク編 1999 スリーエーネットワーク）本冊および翻訳・文法解説書各国語版

【特徴点】

8期から教科書を『みんなの日本語』に変えた。『新日本語の基礎』は技術研修生を対象として作られたものであるため、語彙に多少の偏りがある。『みんなの日本語』の方が語彙的にも内容的にも一般性があり、研修生のニーズにより適していると判断したためである。

<副教材>

『絵とタスクで学ぶ日本語』（村野良子他 1988 凡人社）、『楽しく聞こうⅠ,Ⅱ』（文化外国語専門学校 1992 凡人社）、『楽しく話そうⅠ,Ⅱ』（文化外国語専門学校1995 凡人社）、『楽しく読もうⅠ,Ⅱ』（文化外国語専門学校 1996 凡人社）、『初級日本語 ドリルとしてのゲーム教材50』（栗山昌子他 1992 アルク）、『クラス活動集101』（高橋美和子他 1994 スリーエーネットワーク）、『続クラス活動集131』（高橋美和子他 11994 スリーエーネットワーク）、『にはんご きいてはなして』（元橋富士子他 1989 ジャパンタイムズ）、『留学生の12か月』（村野良子他 1993 凡人社）、『モジュールで学ぶよくわかる日本語Ⅰ,Ⅱ』（コーベニ他 1993 アルク）、『日本語コミュニケーション』

ンゲーム80』(CAGの会 1993 ジャパンタイムズ)、『わくわく文法リスニング99』(小林典子他 1995 凡人社)、『Basic Functional Japanese』(Pegasus 1987 The Japan Times)、『Situational Functional Japanese』(筑波ランゲージグループ)、『Japanese for Everyone』(名柄他 1990 学習研究社)、『Japanese for Busy People ワークブック』(国際日本語普及協会 1993 講談社インターナショナル)

これらの副教材は主として応用タスクのために使われる。各課の学習内容に合ったタスクを上記の教材から選びだし、課毎のタスクリストとしてまとめている。

<文字学習教科書>

『かなマスターひらがなカタカナ練習帳』(アークアカデミー専門教育出版)
『Basic Kanji Book Vol. 1』(加納千恵子他 1995 凡人社)

<発音指導教材>

『An Introduction to Modern Japanese』(水谷修・水谷信子)
『外国人のための日本語例文問題シリーズ発音・聴解』(土岐哲・村田水恵 1989 荒竹出版)
自主教材(わらべ歌・ことわざ・早口言葉・かるた・現代詩・短歌・俳句などから
選び、必要に応じて英訳・挿し絵をつけた。)

<授業の進め方>

1時限目:最初の各5分程度で発音練習と前日学習した箇所の書き取りを行う。発音練習の教材は、前半は『An Introduction to Modern Japanese』、後半は①『外国人のための日本語例文問題シリーズ発音・聴解』と②自主教材(曜日によってどちらか)を用いた。

教授法としては直接法とオーディオリンガル法を用いる。授業で使用するのは本冊(漢字・かな混じり版)であるが、学生には翻訳・文法解説書各国語版を渡し、当日の学習項目は予習してくるように指導している。

1時限目と2時限目で主教科書の1課分を終えるので、1時限目には導入、1課分の学習項目の前半の説明、その定着を図るための練習問題、タスクを行う。

原則として隔週水曜日の1時限目には試験を行う。試験の前には復習日を設ける。

2時限目:学習項目の後半について、説明、練習問題、タスク、「会話」練習を行う。

3時限目:文字(ひらがな・カタカナ・漢字)指導と応用タスク。ひらがな・カタ

カナの習得後、漢字学習に入る。原則として教科書の1課分を2日で終え、2課毎にテストを行う。また、午前中に学習した項目を、より応用的なタスクによって発展させ、現実の場面における言語運用能力を養う。

4時限目：曜日によって、ビデオ、読み練習、文法解説。ビデオは学生が既習の日本語の範囲で理解できるものを選び（「ヤンさんと日本の人々」国際交流基金国際センター、「新日本語の基礎 復習ビデオ」海外技術者研修協会、など）、「習った日本語を実際の場面でどのように使うか」という運用力を身につけさせることを目指した。読み練習では、毎日の発音練習だけではカバーできない「ある程度まとまりのある文章を、聞く人に分かりやすく読む」練習をする。これは「口頭発表プロジェクト」発表会のためにも重要である。文法解説では、学生にとって難しいと思われる項目、試験や宿題で間違いの多かった箇所、また学生から質問が出た事項などについて、必要であれば初めの頃は英語も使って説明する。

【特徴点】

上記の「授業の進め方」は、学生のレベル・状態に応じて一部変更されることがある。7期には、第3回試験終了あたりから、遅れている学生2人に対して3限目に「個人授業」を行った。3時限目は漢字と応用タスクの時間であるが、担当教師が2人いる曜日に限り、1人の教師は予定どおり漢字とタスクの授業を行い、あとの1人の教師は個人授業を行った。（学生のうち比較的できる1人は漢字のときだけクラスに合流し、応用タスクのときは個人授業を受けた。あとの1人は全面的に個人授業を受けた。）このように時間割を柔軟に運営することにより、遅れている学生のケアを行うよう配慮している。

8期は、第26日目（教科書 第19課終了の段階）から授業進度の異なる2クラスを設けた。それまでも、比較的できるグループと比較的できないグループとで2クラス編成であったが、なかでも特別ペースの遅い3人は、他の学生と同じ進度で学習することは非常に困難と判断したためである。

通常クラスでは1日1課進んで50課まで終了するところを、この「特別クラス」では第26日目以降（第25日目までの既習箇所の復習にも充分時間をかけながら）1日半で1課のペースで進み、37課まで終了した。

「特別クラス」の3人の学生は、自分たちのペースに合った進度で学習することが可能になったため表情も明るくなり、「理解した」という満足感をもってコースを修了することができた。このような進度の遅いクラスを設ける場合には、そこに参加

することを、まず学生本人が十分に納得し、意義を見出していることが重要である。

「今の進捗で消化不良のまま進んで50課まで行くのと、37課まで確実に理解するのとどちらがいいか」と聞いたところ、3人は迷うことなく後者の方がいいと答えた。

このように「特別クラス」の3人の満足度は非常に高かったが(うち1人はまもなく入院したため、残念ながら以後の授業にはほとんど出られなくなったが)、一方、通常クラスの方には多少の不満が生じた。従来のクラス分けでは5人と6人という編成であったが「特別クラス」を設けたことにより3人以外は全員同じ一つのクラスになったため、クラス内でレベル差が生じ、できるグループは特に問題はなかったが「中間組」から「練習の時間が少なくなった」「できる人たちにさえぎられて十分に発言できない」といった不満が聞かれるようになった。できれば通常クラスをレベルによってさらに二つに分けたいところだったが、それは物理的条件によって不可能であった。また、3時限目の授業のうち教師が1人のときは合同クラスになるが、進度の異なる2クラスの合同授業になるため、しばしば「複式授業」にならざるを得ないなど、教師の苦労も大きかった。

このような問題はあったものの、「特別クラス」を設けたことは、概して長所の方が多かったと思われる。全員同じ進捗で進んだ場合、3人が殆ど何も理解できずに置き去りにされたであろうことを考えると、多少の足踏みを余儀なくされる学生が出たとしても、やはり3人のケアを行ったことの意味は大きかったと考える。

<宿題>

毎日、その日の学習内容を範囲とする宿題を配布し、翌日に提出させる。1時限目に前日の宿題を回収して採点し、3時限目に返却する。同時にその日の宿題を配付する。6期までは『新日本語の基礎』準拠の『標準問題集』を配付していたが、7期からは教師が作成した宿題に切り替えた。

【特徴点】

6期まで使用していた『標準問題集』は基本的に文型練習のためのドリルであり、文型定着のためには大いに有効であるが、一方単調で内容的に面白味に欠け量も多いので、宿題提出は義務づけたにもかかわらず、提出率は必ずしもよくなかった。そこで7期に『標準問題集』とは全く異なる宿題を教師が分担して作成し、以後それを使用している。新しく作成した宿題は、次のようなものである。

- 1) その日の学習項目を取り入れた対話文を作り、ポイントとなる箇所を()にして埋めさせる。この対話文はできる限り研修生の日常生活に密着したもの

で、彼等が遭遇する可能性の高い場面・状況の中で行われるものにした。

2) 学生自身についての質問に答えさせる。

3) 分量：原則としてA4用紙1枚程度

この宿題の長所は、①単調で機械的な反復練習を避け、分量も従来のものの約半分に減らしたことにより学生の負担感を軽減し、結果として提出率もかなり上がった、②習ったことを現実の場面において運用する手助けになる、ということである。

しかし一方、文型練習が欠落しているため文型定着がおろそかになるという短所もある。このタイプの宿題は基本的に、その日の学習項目が正しく理解されたかどうかをチェックするためのものであり、「練習させる」ためのものではない。「練習する」ことは学生が自主的に行うであろうことを前提として作られている。この短所を如何に補完していくかが今後の課題である。

作成時の7期には教科書として『新日本語の基礎』を使用していたが、8期から『みんなの日本語』に変わったので、8期に文法項目・語彙の面で見直しを行った。

現在も学生の反応、採点者の意見などを取り入れながら、作成者が随時見直しを行っている。

<定期試験>

主教科書の既習範囲について、定期的に試験を行う。1回の試験範囲は5～7課分で、1課から50課までを8回に分けて行う。試験は聴解・口頭・筆記から成る。試験問題の詳細については、「日本語研修コース 平成8年度（第2期・第3期）報告書」を参照されたい。採点后、学生にフィードバックを行い、結果を学生に（個別的に）知らせる。間違いの多かった箇所については、できる限り平常の授業、及び文法解説の時間に採り挙げて説明する。

【特徴点】

8期から教科書が『みんなの日本語』に変わったため、文法項目・語彙の見直しを行った。

<日本語能力試験>

コース修了直前に、日本語能力試験（3級、平成6年度版）（8期の「特別クラス」は4級）を実施する。これは、学生が到達した日本語能力のレベルを知るためであり、成績評価には影響しない。

【特徴点】

6期～9期の受験結果は次のとおりである。

- 6期：受験者8名、合格者4名 7期：受験者10名、合格者6名
8期：(3級) 受験者8名、合格者8名 (4級) 受験者2名、合格者1名
(4級を受けるべき1名は入院のため未受験)
9期：受験者8名、合格者5名

<評価>

学生の総合的評価は次のような配点にもとづいて行う。

試験：250点 (定期試験：200点、漢字テスト：50点)

口頭発表プロジェクト：150点

平常点：100点 (出席、宿題提出、態度など)

400～500点はA、350～399点はB、300～349点はCと評価される。

<コース評価>

修了時に、学生にコースの評価をしてもらう。評価はアンケート形式で行い、授業及び他の活動の各々について、「大変いい」(4)、「いい」(3)、「あまりよくない」(2)、「ぜんぜんよくない」(1)、という4点法で採点してもらう。

2. 専門への橋渡し

研修コースを修了した留学生たちは、その後ただちに各自の専門分野における研究活動に入る。日本語能力のレベルは初級修了程度であっても、原則として日本語で専門分野の学習・研究をし、レポート・論文を書き、ときには研究会や学会で発表しなければならない。そのような事情を鑑み、このコースでは、日本語そのものの学習のほかに、学生の専門分野における活動への橋渡しとなるような教育も行っている。これには「コンピューター入門」と「口頭発表プロジェクト」がある。また9期には「口頭発表プロジェクト」に代わる新たな試みとして、「ドラマプロジェクト」を行った。

2-1. コンピューター入門

週に2回、4時限目に「コンピューター入門」の授業がある。この授業の目標は、パソコンを用いて、まず日本語の文章が打てるようになること、次に、「口頭発表プロジェクト」のために必要なアンケート調査の集計と分析、発表用の図表の作成、そしてコー

スの最後に作成される「文集」の原稿作りができるようになること、である。

学生は、各自1台のノートパソコンを使用して練習することができる。

2-2. 口頭発表プロジェクト

<目的>

冒頭に述べたような事情を考慮し、「口頭発表プロジェクト」をコースの中に組み入れている。

このプロジェクトは、各自が選んだテーマについて日本人にアンケート調査を行い、調査結果を分析して結論を導き、それを口頭発表するというものである。ここで重視されるのは、単に発表の際の日本語としての完成度ではなく、調査→分析→まとめという過程、すなわち、日本語での研究発表の基本的な方法の習得である。

このようにして研修生たちに日本語での研究発表の練習の機会を与えることにより、研修コース修了後、専門分野での研究活動に少しでもスムーズに移行できるよう、手助けすることを目指す。

<教材>

プロジェクト開始以来改良を重ねて作られた教材が、『5か月で口頭発表』（三浦香苗・岡沢孝雄・深澤のぞみ）という冊子にまとめられている。プロジェクトの開始時からこの教材を使用することにより、学生はプロジェクトの目的をはっきり認識できるようになる。この冊子では特に「アンケート項目の作り方」と「調査後のデータ処理と結果の出し方」を分かりやすく解説している。

<進め方>

コース開始後8週間目頃から始め、毎週1～1.5コマをそれにあてる。「コンピューター入門」の授業も後半からは、プロジェクトの進行状況に合わせて行われる。口頭発表までのプロセスは以下のとおりである。(各プロセスの具体的内容については、『5か月で口頭発表』参照。)

1) 基礎練習

- ① 読解教材を読み、それを応用して自分のことについて発表する
- ② 発表に必要なことばや表現を学ぶ

2) インタビューの練習とインタビュー調査

- ③ インタビュー聞き取り練習、インタビューに必要な表現の練習、ミニインタビュー練習

- ④ テーマの決め方を学ぶ
- ⑤ 関連文献や資料を読む
- ⑥ インタビュー項目の作り方を学ぶ
- ⑦ 自分のテーマを決め、インタビュー項目を作る
- ⑧ パソコンで調査票を作る
- ⑨ インタビュー調査をする
- ⑩ データの入れ方、統計の取り方を学び、自分のものを分析する
- ⑪ インタビュー結果のまとめ方を学び、自分のものをまとめる

3) 口頭発表の準備

- ⑫ アウトラインの作り方を学び、自分のアウトラインを書く
- ⑬ 発表原稿の書き方を学び、自分の原稿を書く
- ⑭ 図と表の説明の仕方を学ぶ

4) 口頭発表のための準備

- ⑮ 発表のための発音練習
- ⑯ 発表技術を学ぶ
- ⑰ リハーサルを行い、そのビデオを見て検討・反省する。

5) スピーチ発表会

発表会の前に、留学生センターの教官、留学生課の事務官、研修生の指導教官や言語教育に関心のある教官、また日本人ボランティア学生やホームステイ先の日本人家族などに案内状を送付する。学生は、7～10分程度で発表を行う。

【特徴点】

コンピューターの操作、それを使った発表技術、さらには研究の進め方に関して、前期の学生と後期の学生の間には差がある。前期の学生は全員研究留学生であるため、当然研究の基本的方法は心得ており、またパソコンの操作にも慣れた者が多い。これに対して後期の学生は教員研修生が中心であり、年令も比較的高いため、研究の方法もパソコンの操作も前期の学生に比べると十分に会得していない者が多い。また発表に至るスケジュールも、前期の方が余裕がある。前期のスピーチ発表会は9月であるので、夏休みの一部を準備にあてることが可能なのに対し、後期の場合、冬休みという比較的短い休みの後、2月末の発表会まで授業が続くので、発表の準備はどうしても時間が不足気味になる。

上記のような前期・後期の相違は、6期から8期にもそのままあてはまる。

6期と8期は前期であったため、スピーチ発表会の準備は比較的余裕をもって行うことができた。技術面では、6期から、プレゼンテーション用パソコンソフト（パワーポイント）を用いてスライドを作成しプロジェクターで大画面に写し出すことが可能になったため、視覚的に分かりやすくインパクトがあり楽しいプレゼンテーションに、皆が工夫を凝らすようになった。

7期は後期であったので、発表までにはかなりの苦労が伴った。最終的には全員無事に発表にこぎつけることができたが、1人の学生に関しては、直前になっても準備ができておらず、教師がほぼ全面的に発表原稿とスライドを作成する結果となった。（発表を免除するという事も考えられたが、1.でも述べた「研修生としての連帯感」を考慮すると、1人だけ発表しないという事態は避けたかった。）

このように、発表に至るまでの過程はかなり苦しく、学生の負担感も大きいようであるが、それだけに、発表を成し終えたときの喜びもまた大きい。発表までは全員口をそろえて「大変だ」と言うが、発表後はやはり全員が「発表してよかった」という感想を述べている。専門分野での研究に進んだ後も、「あのとき発表したことが役に立った」という学生が多い。

このように苦労も多い代わり達成感も大きい口頭発表であるが、9期には、特に教員研修生の負担を考慮して、口頭発表に代わるプロジェクトとして「楽しく」をモットーに、「ドラマプロジェクト」を行った。

<評価>

スピーチ発表会の後、留学生センター教官と非常勤講師で発表の評価を行う。「構成」・「内容」・「音声」・「プレゼンテーション」の4つの観点から評価し、当日の発表の評価とする。準備段階で学生が提出する「全体的プラン」「アウトライン」「草稿」の各々の評価に当日の発表の評価を加えて、プロジェクトの総合的評価とする。

<文集作り>

スピーチ発表会の後、発表原稿を文集の形にまとめる。口頭発表のための原稿を、読むための原稿に書き直す。原稿の他、研修生の顔写真、思い出の写真、学生及び教師の寄せ書き、住所録なども入れ、研修コースの勉強の成果と思い出を1冊にまとめる。「司会者が中心になって方針について話し合う」「係をきめて作業を分担する」「相談しながら作業を進める」といった過程も、重要な学習活動の一つである。

2 - 3. ドラマプロジェクト

9期に、8期までの「口頭発表プロジェクト」に代わる新しい試みとして「ドラマプロジェクト」を実施した。

概括すると、これは従来の口頭発表の中にいくつかの寸劇を組み込んだものである。

総合日本語コースEクラス(上級1)で学ぶ研修生2人が「日本の家族像—夫として父親としての男性」と題する発表を行い、発表の途中随所で、発表内容に関連したエピソードという形で、寸劇が演じられる。寸劇は12回演じられ、うち11回は『サザエさん』、1回は『コボちゃん』の4コマ漫画を再現したものである。

このプロジェクトについての詳しい報告は、本紀要中の三浦香苗・山口実千代「ハイブリッド・ドラマプロジェクト2000—読解、日本事情を経て、ドラマを含んだ研究発表に至る—」をお読みいただきたい。

特にドラマを演じた初級の学生たちが、練習を通じて一層親しくなったこと、最初無表情に見えたある学生の表情が明るく豊かになったこと、また当日の発表会場には笑い拍手が絶えなかったこと、などが印象的であった。

3. 日本文化・日本事情・異文化交流

研修生たちの、日本の生活・習慣・文化への理解を深めると同時に、日本人学生や地域の日本人との交流をはかるために、以下のような活動を行っている。

3 - 1. 日本人ボランティア・チューターとの時間 (「日本・世界事情」)

<目的>

研修生には、日本語を使う場、日本人の友人を作る場、日本を知る場、自国の文化を紹介する場を、日本人ボランティア学生には、異文化接触体験の場、語学教師志望学生の練習の場、外国人の友人を作る場を提供する。

授業の一部であるが学生の自主性を重んじ、研修生と日本人学生の双方に利益があることを目指す。

<募集と説明会>

金沢大学の学生からボランティア・チューターを募集する。学内にポスターを貼ったり、前の期に参加した学生に案内状を送付したりする。学生同士の口コミで参加する学生も少なくない。応募・参加する学生は、15～25人程度である。

授業での活動の前に、日本人学生に対する説明会を行う。また、活動日のうち3日を日本人学生と教師だけの話し合いの日とし、その初回には日本人学生を6つの班に

分け、各々の斑のリーダーを決める。活動の内容は各斑で話し合い、教師に予定を報告し、助言を受ける。実施後には活動報告を提出する。

<活動の概要>

週に1回日本人学生が研修生の教室を訪れ、研修生とともに活動・会話を行う。

まず日本人学生が中心となって、日本事情を学ぶために役に立つ活動を計画・実施する。例えば、日本語での名刺作り、日本地理の知識を得るためのゲーム、日本の歌、日本の伝統的な遊び（福笑い、すごろく、手押し相撲など）、日本の年中行事紹介、等である。また、日本語学習の手伝いもする。

研修生の方も、自分の国を紹介する発表を行う。これは「口頭発表プロジェクト」の1段階として行われるもので、日本語での発表の練習にもなり、また、日本人学生に研修生の国について知る機会を与えるものである。8期には、十分な下準備の後であれば、日本語での質議応答・討論が行えるまでになった。

毎回活動後約30分は、研修生と日本人学生が個別的に自由会話を行う。

<活動の評価>

この活動の特徴は、日本人学生が研修生に一方的に日本についての知識を授けたり、日本語学習の手助けをしたりする、言わば「一方通行」の活動ではなく、研修生の方も日本人学生に自国の事情をはじめ様々な知識・経験を提供する、双方からの共同活動である、ということである。（この活動を「日本・世界事情」と呼ぶ所以である。）

特に日本人学生の、この活動に対する評価は高く、「留学生と親しくなれた」、「知らない世界に触れることができた」、「日本語を教える機会が持てた」、「文化的背景の異なる人に、ものごとを分かりやすく説明する訓練ができた」、「留学生にとって分かりやすい日本語の使い方を練習することができた」、「専門分野の違う日本人学生と付き合いができた」、などを主な収穫として挙げている。

3 - 2. ビデオ、日本の歌、書道

週に1コマ、ビデオ視聴と日本の歌の時間を設けた。ビデオは日本語学習のためのものの他に、日本の生活習慣・日本事情を紹介するもの、日本の歌は、小学唱歌やカラオケでよく歌われるものなど、多くの日本人に親しまれている歌を選んで聞かせ、また歌う練習もした。書道は、1期に2コマ（連続）を設け、書道が得意な教師が教えた。

3 - 3. ホームステイ、見学、ハイキング

地域の日本人家庭の訪問やホームステイ、学校見学、ハイキングなども行っている。

ホームステイ先の日本人家族とは、その後も交流が長続きするケースが多く、特に研修コース終了後も金沢大学に留まる研修生とは、離日まで親しい付き合いが続くことが多い。

4. コンサルテーション・カウンセリング

コース開始後3～5回程度、試験のない水曜日にコンサルテーションを行う。一人一人の学生と個別に話し、日常生活上・学習上の問題がないかどうか、また日本語の学習をどのように行っているかを聞き、必要なアドバイスをを行う。

また、留学生センターには相談指導部門の専任教官1名がおり、留学生の相談、留学生受け入れ研究室の相談、留学生支援組織との連携、などの活動を行っている。

参考資料

金沢大学留学生センター (1996) 『日本語研修コース 第1期報告書』

金沢大学留学生センター (1997) 『日本語研修コース 平成8年度報告書』

金沢大学留学生センター (1998) 『日本語研修コース 平成9年度報告書』

三浦香苗・岡沢孝雄・深澤のぞみ (1998) 『5か月で口頭発表』

三浦香苗・岡沢孝雄・深澤のぞみ (1999) 「留学生と日本人ボランティア・チューターの能動的共同活動『日本・世界事情』」(日本語教育方法研究会 発表要旨)

資料1

<第6期(平成10年度 前期) 研修生名簿>

氏名 研究留学生・教員研修生の別	国籍	専門分野	研修コース修了後の進学先
Sada Betty Lika 研究留学生	ブラジル	薬学	富山医科薬科大学薬学部
Le Xuan Hai 研究留学生	ベトナム	薬学	富山医科薬科大学薬学部
Hasrin Haji Masri 研究留学生	ブルネイ	コンピューター	北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
Kitiyodom Pastsakorn 研究留学生	タイ	土木工学	金沢大学自然科学研究科
Ahmed M.Naili 研究留学生	リビア	政治学	金沢大学法学研究科
Wanai Cristina de Souza 研究留学生	ブラジル	医学	富山医科薬科大学薬学部
Patrik Degenaar 研究留学生	オランダ	物理学	北陸先端科学技術大学院大学 材料科学研究科
Md. Osama Alhalabi 研究留学生	シリア	コンピューター	北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
Jose F. Abaraca M. 研究留学生	ホンジュラス	化学	福井大学工学部
Anna Andreyeva 研究留学生	ロシア	文学	金沢大学教育学研究科

資料2

<第6期(平成10年度 前期) 授業進捗表>

月日	曜日	「新日本語の基礎」の課	文字学習	その他(P:口頭発表プロジェクト)
4/8	水	コース説明50音の導入	平仮名	
9	木	生活オリエンテーション		
13	月	開講式 発音・挨拶・自己紹介・数字1	平仮名 1~10	
14	火	1	平仮名	テープの使い方 文法 ビデオ
15	水	2	平仮名	
16	木	3	平仮名	日本の歌 ビデオ
17	金	4	平仮名	見学(伝統工芸館、兼六園でお茶)
20	月	5	平仮名	コンピューター
21	火	6	平仮名	文法 ビデオ
22	水	復習	平仮名	日本人学生との時間
23	木	試験 1	平仮名	文法 日本の歌 ビデオ
24	金	7	平仮名	コンピューター パーティー
27	月	8	平仮名テスト・カタカナ	コンピューター
28	火	9	カタカナ	文法 ビデオ
5/6	水	10	カタカナ	日本人学生との時間
7	木	11	カタカナ	日本の歌 ビデオ 読解
8	金	12	カタカナ 漢字1-1	コンピューター
11	月	13	カタカナ 漢字1-2	コンピューター
12	火	復習	カタカナ 漢字2-1	文法 ビデオ
13	水	試験 2	カタカナ 漢字2-2	文法 日本人学生との時間
14	木	14	カタカナ 漢字3-1	日本の歌 ビデオ 読解
15	金	15	カタカナ 漢字3-2	コンピューター
18	月	復習	礼状を書く	コンピューター
19	火	16	漢字テスト1	文法 ビデオ
20	水	コンサルテーション	漢字4-1	日本人学生への指導
22	金	18	漢字5-1	コンピューター
25	月	19	漢字テスト2	コンピューター
26	火	復習		生け花
27	水	試験 3	漢字5-2	文法 日本人学生との時間
28	木	20	漢字6-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
29	金	21	漢字6-2	コンピューター
6/1	月	22	漢字7-1	コンピューター
2	火	23	漢字7-2	文法 ビデオ
3	水	コンサルテーション	漢字テスト3	日本人学生との時間 P
4	木	24	漢字8-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
5	金	25	漢字8-2	見学(泉野図書館)
8	月	復習	漢字テスト4	コンピューター
9	火	26	漢字9-1	文法 ビデオ

日本語研修コース 平成10・11年度(第6期～第9期)報告書 (長野・三浦)

10	水	試験 4	漢字9-2	日本人学生との時間 P
11	木	27	漢字10-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
12	金	質問に答える		
15	月	28	漢字10-2	コンピューター
16	火	29	漢字10-3 復習	文法 ビデオ
17	水		漢字11-1	日本人学生への指導 P
18	木	30	漢字テスト 5	日本の歌 ビデオ 読み練習
19	金	31	漢字11-2	コンピューター
22	月	32	漢字12-1	コンピューター
23	火	復習	漢字12-2	文法 ビデオ
24	水	試験 5	漢字13-1	日本人学生との時間 P
25	木	33	漢字13-2	日本の歌 ビデオ 読み練習
26	金	34	漢字テスト 6	コンピューター
29	月	35	漢字14-1	コンピューター
30	火	36		書道
7/1	水	コンサルテーション 3	漢字14-2	日本人学生との時間 P
2	木	37	漢字テスト 7	日本の歌 ビデオ 読み練習
3	金			見学 (YKK)
6	月	38	漢字15-1	コンピューター
7	火	39 復習	漢字15-2	
8	水	試験 6	漢字15-3	日本人学生との時間 P
9	木	40	漢字16-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
10	金			輪島旅行
13	月	41	漢字16-2	コンピューター
14	火	42	漢字17-1	文法 ビデオ
15	水	コンサルテーション 4	漢字テスト 8	日本人学生への指導
16	木	43	漢字17-2	日本の歌 ビデオ 読み練習
17	金	44 45	漢字18-1	コンピューター パーティー
9/1	火	復習	漢字18-2	文法 ビデオ
2	水	試験 7	漢字19-1	日本人学生との時間 P
3	木	46	漢字19-2	日本の歌 ビデオ
4	金	47	漢字テスト 9	コンピューター
7	月	48	漢字20-1	コンピューター
8	火	49	漢字20-2	文法 ビデオ
9	水	50 復習		日本人学生との時間 P
10	木	試験 8	漢英辞典の使い方	P
11	金	日本語能力試験		P
14	月	スピーチ練習・発表予行演習		
16	水	スピーチ発表会		
17	木	文集作り		
18	金	文集作り		コース評価アンケート
21	月	閉講式		

資料3

<第6期(平成10年度 前期) 授業時間割>

	1時限目 8:50~10:20	2時限目 10:30~12:00	3時限目 12:50~14:20	4時限目 14:30~16:10
月	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター
火	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	文法 ビデオ
水	試験 コンサルテーション	文法 (プロジェクトワーク)	タスク活動 文字学習 (プロジェクトワーク)	日本人学生との時間
木	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	日本の歌 ビデオ
金	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター

資料4

<第7期(平成10年度 後期) 研修生 名簿>

氏名 研究留学生・教員研修生の別	国籍	専門分野	研修コース修了後の進学先
Roy DEBRATA 研究留学生	インド	電子工学	金沢大学自然科学研究科
Teh CHENG GUAN 研究留学生	マレーシア	国際関係学	金沢大学法学研究科
Thandar LAY 研究留学生	ミャンマー	経理・経済	富山大学
Chaani GALI 研究留学生	イスラエル	デザイン学	金沢大学教育学研究科
Al-Akeel ALI SOLIMAN 研究留学生	サウジアラビア	薬理学	富山医科薬科大学
Williams JERMAINE DEMETRIE 研究留学生	アメリカ合衆国	比較法学	金沢大学法学研究科
Mercedes Valeria TAMASHIRO 研究留学生	アルゼンチン	運動生理学	富山医科薬科大学
Cassel Pär KRISTOFFER 研究留学生	スウェーデン	日本史学	金沢大学教育学研究科
VICTORIA 教員研修生	ミャンマー	地理学	金沢大学教育学研究科
Kurae NAPHAPHONG 教員研修生	タイ	デザイン学	富山大学
Zabala Nelia SALAYUG 教員研修生	フィリピン	小学校教育	富山大学

Thepvongsa BOUALY 教員研修生	ラオス	数学	福井大学
CHENG Hong 教員研修生	中国	数学	金沢大学教育学研究科
CHEN Hui Rong 教員研修生	中国	英語教育	福井大学

資料5

<第7期(平成10年度 後期)授業進度表>

月日	曜日	「新日本語の基礎」の課	文字学習	その他(P:口頭発表プロジェクト)
10/8	木	コース説明 教科書配布	50音平仮名	
12	金	開講式 発音 挨拶 自己紹介 数字1~10 平仮名50音小テスト 生活オリエンテーション		テープの使い方 テープレコーダー貸し出し
13	火	1 数字100まで	平仮名	文法 ビデオ
14	水	2	平仮名	
15	木	3	平仮名	日本の歌 ビデオ
16	金	4	平仮名	コンピューター
19	月	5	平仮名	コンピューター
20	火	6	平仮名	文法 ビデオ
21	水	コンサルテーション1	平仮名	日本人学生との顔合わせ
22	木	7	カタカナ	日本の歌 ビデオ
23	金	復習	カタカナ	コンピューター パーティー
26	月	8	カタカナ	コンピューター
27	火	9	カタカナ	文法 ビデオ
28	水	試験1		日本人学生との時間
29	木	10	カタカナ	日本の歌 ビデオ 読み練習
11/4	水	11	平仮名・カタカナ復習	日本人学生との時間
5	木	12	カタカナ小テスト	日本の歌 ビデオ 読み練習
6	金	13	漢字1-1	コンピューター
9	月	14-1	漢字1-2	コンピューター
10	火	復習	漢字2-1	日本の歌 ビデオ 読解
11	水	試験2	漢字2-2	文法 日本人学生との時間
12	木	14-2	漢字3-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
13	金	15		見学
16	月	16	漢字テスト	文法 ビデオ
17	火	17	漢字3-2	コンピューター
18	水	コンサルテーション2	漢字4-1	文法
19	木	18	漢字4-2	日本の歌 ビデオ 読み練習
20	金	19	漢字テスト2	コンピューター
24	火	復習	漢字5-1	コンピューター
25	水	試験3	漢字5-2	文法 日本人学生との時間

金沢大学留学生センター紀要 第3号

26	木	20-1	漢字5-3 復習	日本の歌 ビデオ 読み練習
27	金	20-2	漢字6-1	コンピューター
30	月	21	漢字6-2	文法 ビデオ
12/1	火	22		P コンピューター
2	水	23	漢字テスト3	日本人学生との時間
3	木	24	漢字7-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
4	金	25	漢字7-2	コンピューター
7	月	復習	漢字8-1	ビデオ 文法
8	火	26	漢字8-2	コンピューター
9	水	試験4	礼状の書き方	P
10	木	27	漢字9-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
11	金	28	漢字9-2	見学 (泉野図書館)
14	月	29	漢字テスト4	ビデオ 文法
15	火	30	漢字10-1	コンピューター P
16	水	コンサルテーション3	漢字10-2	パーティー p
17	木	31	漢字10-3 復習	日本の歌 ビデオ 読み練習
18	金	32	漢字テスト5	コンピューター
1/11	月	33		書道
12	火	復習	漢字11-1	コンピューター
13	水	試験5	漢字11-2	日本人学生との時間 P
14	木	34	漢字12-1	日本の歌 ビデオ 読み練習
18	月	35	漢字12-2	ビデオ 文法
19	火	36	漢字13-1	コンピューター P
20	水	コンサルテーション4	漢字テスト6	日本人学生への指導 P
21	木	37	漢字13-2	日本の歌 ビデオ 読み練習
22	金	38	漢字14-1	コンピューター
25	月	39	漢字14-2	文法 ビデオ
26	火	復習	漢字15-1	コンピューター
27	水	試験6	漢字15-2	日本人学生との時間 P
28	木	40	漢字15-3 復習	P
29	金	41	漢字テスト7	コンピューター
2/1	月	42	漢字16-1	文法 ビデオ
2	火	43	漢字16-2	コンピューター
3	水	44	漢字17-1	日本人学生との時間 P
4	木	45	漢字テスト8	日本の歌 ビデオ 読み練習
5	金	46	漢字17-2	コンピューター
8	月	47	漢字18-1	文法 ビデオ
9	火	復習	漢字18-2	コンピューター P
10	水	試験7	漢字19-1	日本人学生との時間 P
12	金	48	漢字テスト9	コンピューター
15	月	49	漢字19-2	文法 ビデオ
16	火	50	漢字20-1	コンピューター

日本語研修コース 平成10・11年度(第6期～第9期)報告書 (長野・三浦)

17	水	試験 8	漢字20-2	日本人学生への指導 P
18	木	スピーチ原稿のチェック	スピーチの練習	
19	金	日本語能力試験	スキー旅行	
22	月	スピーチ練習 スピーチ予行演習	漢英辞典の使い方	コース評価アンケート 京都旅行
23	火	スピーチ発表会		
24	水	文集作り		
25	木	文集作り		
26	金			
3/1	月	閉講式		

資料6

<第7期(平成10年度 後期)授業時間割>

	1時限目 8:50～10:20	2時限目 10:30～12:00	3時限目 12:50～14:20	4時限目 14:30～16:10
月	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	文法・ビデオ
火	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター
水	試験 コンサルテーション	文法 (プロジェクトワーク)	タスク活動 文字学習 (プロジェクトワーク)	日本人学生との時間
木	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	日本の歌 ビデオ
金	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター

資料7

<第8期(平成11年度 前期)研修生名簿>

氏名 研究留学生・教員研修生の別	国籍	専門分野	研修コース修了後の進学先
Charoen CHINWANITCHAROEN 研究留学生	タイ	化学工学	金沢大学
Cristina Tagalog CAMAGONG 研究留学生	フィリピン	金属化学	金沢大学
Isaac Itamar GUTIEREZ 研究留学生	パナマ	エネルギー工学	金沢大学
Adriana Edith EDWARDS 研究留学生	アルゼンチン	史学	金沢大学

Paoulina Ivanova KOLEVA 研究留学生	ブルガリア	社会福祉学	金沢大学
Vlara Gueorguieva BOJKOVA 研究留学生	ブルガリア	経済政策学	金沢大学
Yuliya Vitalyevna SOVASTEEVA 研究留学生	ロシア	金融経済学	金沢大学
Myint Maung SOE 研究留学生	ミャンマー	物理学	北陸先端科学技術大学院大学
Vladimir Augusto FABREGA 研究留学生	パナマ	情報工学	北陸先端科学技術大学院大学
Valerie Ann ZIMANY 研究留学生	アメリカ合衆国	造形学	金沢美術工芸大学
Ali NASER NOADDELI 研究留学生	イラン	医学	富山医科薬科大学
Adriane Akemi FURUSAWA 研究留学生	ブラジル	医学	富山医科薬科大学
Mohamad Assad TAHA 研究留学生	レバノン	建築学	福井大学
Anelise EHRHARDT 研究留学生	ブラジル	応用化学	福井大学
Malika Maralovna ISRAILOVA 研究留学生	ウズベキスタン	医学	福井大学

資料 8

<第8期(平成11年度 前期)授業進度表>

月日	曜日	「新日本語の基礎」の課	文字学習	その他(P:口頭発表プロジェクト)
4/8	木	コース説明 教科書配布	50音導入	平仮名
12	月	開講式 発音 挨拶 自己紹介 数字1~10	平仮名50音小テスト	コンピューター
13	火	1 数字100まで	平仮名	文法 ビデオ
14	水	2 数字1000まで	平仮名	日本人学生との指導
15	木	3	平仮名	日本の歌 ビデオ 会話
16	金	4	平仮名	市内見学
19	月	5	平仮名	コンピューター
20	火	6	平仮名	文法 ビデオ
21	水	復習	平仮名	日本人学生との顔合わせ
22	木	試験1 試験フィードバック	平仮名	日本の歌 会話 ビデオ
23	金	7	平仮名復習・小テスト	コンピューター
26	月	8	カタカナ	コンピューター
27	火	9	カタカナ	ビデオ 文法
28	水	10	カタカナ	交流パーティー
5/6	木	11	カタカナ	
7	金	12	カタカナ	コンピューター
10	月	13	カタカナ小テスト	コンピューター
11	火	復習	カタカナ 復習	ビデオ 文法 P
12	水	試験2	漢字 1-2	日本人学生との時間

13	木	14	漢字1-2	日本の歌 ビデオ
14	金	15	漢字2-1	コンピューター
17	月	16	礼状の書き方	コンピューター
18	火	17	漢字2-2	ビデオ 文法
19	水	コンサルテーション1	漢字テスト1	日本人学生への指導
20	木	18	漢字3-1	P
21	金	19	漢字3-2	コンピューター
24	月	20	漢字4-1	コンピューター
25	火	復習	漢字4-2	大学図書館見学 P
26	水	試験3	漢字5-1	日本人学生との時間 P
27	木	21	漢字5-2	日本の歌 ビデオ
28	金	22	漢字テスト2	コンピューター
6/1	火	23	漢字6-1	P
2	水	コンサルテーション2	漢字6-2	日本人学生との時間 P
3	木	24	漢字テスト3	日本の歌 ビデオ
4	金	25	漢字7-1	ハイキング
7	月	復習	漢字7-2	コンピューター
8	火	26	漢字8-1	ビデオ 文法
9	水	試験4	漢字8-2	日本人学生との時間 P ビデオ
10	木	27	漢字9-1	日本の歌 ビデオ
11	金	28	漢字テスト4	コンピューター
14	月	29		「百万石まつり」見学
15	火	30	漢字9-2	ビデオ 文法
16	水		漢字10-1	日本人学生への指導 P
17	木	31	漢字10-2	日本の歌 ビデオ
18	金	32	漢字11-1	コンピューター
21	月	33	漢字テスト5	コンピューター
22	火	復習	漢字11-2	ビデオ
23	水	試験5	漢字12-1	日本人学生との時間 P
24	木	34		書道
25	金	35	漢字12-2	コンピューター
28	月	36	漢字13-1	P
29	火	37	漢字テスト6	ビデオ 文法
30	水		漢字13-2	ビデオ 日本人学生との時間
7/1	木	38	漢字14-1	日本の歌 ビデオ
2	金	39	漢字14-2	コンピューター
5	月	40	漢字テスト7	コンピューター
6	火	復習	漢字15-1	P
7	水	試験6	漢字15-2	日本人学生との時間
8	木	41	漢字15-3	P
9	金	42		「紙梳きの里」見学
12	月	43	漢字16-1	コンピューター

13	火	44	漢字16-2	P
14	水		漢字テスト8	日本人学生との時間 P
15	木	45	漢字17-1	P
16	金	46	漢字17-2	コンピューター パーティー
8/30	月	復習	漢字18-1	P
31	火	47	漢字18-2	
9/1	水	試験7	漢字19-1	ビデオ 日本人学生との時間 P
2	木	48	漢字19-2	ビデオ P
3	金	49	漢字テスト9	P
6	月	50	漢字20-1	P
7	火	復習	漢字20-2	P
8	水	試験8	漢英辞典の使い方	日本人学生との時間 P
9	木	日本語能力試験		P
10	金		スピーチ予行練習	
13	月		スピーチ発表会	
14	火		文集作り	
16	木		文集作り	コース評価アンケート
17	金		閉講式	

(上記の進捗表は、「通常クラス」のもの。進捗の遅い「特別クラス」は、19課終了以降、1日半で1課のペースで進み、37課まで終了した。漢字学習、その他の活動については「通常クラス」と同様である。)

資料9

<第8期(平成11年度 前期)授業時間割>

	1時限目 8:50~10:20	2時限目 10:30~12:00	3時限目 12:50~14:20	4時限目 14:30~16:10
月	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター
火	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	文法 ビデオ
水	試験 コンサルテーション	文法 (プロジェクトワーク)	タスク活動 文字学習 (プロジェクトワーク)	日本人学生との時間
木	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	日本の歌 ビデオ
金	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター

資料10

<第9期(平成11年度 後期)研修生名簿>

氏名 研究留学生・教員研修生の別	国籍	専門分野	研修コース修了後の進学先
Sathuluri Ramachandra RAO 研究留学生	インド	生物工学	北陸先端科学技術大学院大学
Melisa Rosa LUXTON 研究留学生	オーストラリア	教育学	金沢大学教育学研究科
Jesper Kvist LAGERBERG 研究留学生	デンマーク	情報学	金沢大学自然科学研究科
Pedro Carlos Freitas AIRES 研究留学生	ポルトガル	比較文学	金沢大学文学研究科
Aleksandr Mikhaili SARGSYAN 研究留学生	アルメニア	国際政治学	金沢大学法学部
Sriwongsitanont SUPAPORN 研究留学生	タイ	薬学	富山医科薬科大学
W.BAWM CHANG 教員研修生	ミャンマー	数学教育学	福井大学
NYUNT WIN 教員研修生	ミャンマー	理科教育学	福井大学
Htay Htay MYINT 教員研修生	ミャンマー	理科教育学	福井大学
Lina HNG 教員研修生	インドネシア	コンピューター	福井大学
Qing Zhe AN 教員研修生	中国	日本語教育学	福井大学
Thamavonseng SOURICHANH 教員研修生	ラオス	数学教育学	福井大学
Santiago Victor Manuel GARCIA 教員研修生	メキシコ	小学校教育	福井大学

資料11

<第9期(平成11年度 後期) 授業進度表>

月日	曜日	「新日本語の基礎」の課	文字学習	その他(P:口頭発表プロジェクト)
10/13	水	コース説明 日本語カインタビュー	教科書配布 50音導入 平仮名	
18	月	開講式 クラスでの呼び名 発音 挨拶 自己紹介	数字1~10 テープの使い方	平仮名50音小テスト
19	火	1 数字100まで	平仮名	コンピューター
20	水	2 数字1000まで	平仮名	日本人学生への指導
21	木	3	平仮名	ビデオ 易しい読み物
22	金	4	平仮名	コンピューター
25	月	5	平仮名	文法
26	火	6	平仮名	コンピューター
27	水	7	平仮名	日本人学生との顔合わせ
28	木	復習	カタカナ	P
29	金	試験1	カタカナ	ビデオ コンピューター
11/8	月	8	カタカナ	試験1フィードバック P
9	火	9	カタカナ	コンピューター
10	水	コンサルテーション1	カタカナ	日本人学生との時間 P
11	木	10	平仮名・カタカナ復習	P
12	金	11	カタカナ小テスト	ビデオ コンピューター
15	月	12	漢字1-1	ビデオ P
16	火	復習	漢字1-2	コンピューター
17	水	試験2	漢字2-1	P 日本人学生への指導
18	木	13	漢字2-2	ビデオ P
19	金	14	漢字3-1	コンピューター
22	月	15	漢字3-2	試験2フィードバック 文法
24	水	コンサルテーション2	漢字テスト1	文法 日本人学生との時間
25	木	16	漢字4-1	P
26	金	17	漢字4-2	コンピューター
29	月	18	漢字テスト2	ビデオ 文法
30	火	復習	漢字5-1	コンピューター
12/1	水	試験3	漢字5-2	P 日本人学生との時間
2	木	19	漢字6-1	P
3	金	20	漢字6-2	コンピューター
6	月	21	礼状の書き方	試験3 フィードバック
7	火	22	漢字テスト3	大学図書館見学
8	水	コンサルテーション3	漢字7-2	P ビデオ 日本人学生との時間
9	木	23	漢字8-1	P
10	金	24	漢字8-2	
13	月	25	礼状を書く	ビデオ
14	火	復習	漢字9-1	コンピューター
15	水	試験4	漢字9-2	P ビデオ 日本人学生への指導

	16	木	26		漢字10-1	P
	17	金	27		漢字10-2	コンピューター
	20	月	28		漢字テスト4	試験4フィードバック ビデオ
	21	火	29		漢字10-3	コンピューター
1	11	火	30		漢字テスト5	コンピューター
	12	水	コンサルテーション4		漢字11-1	P 文法 ビデオ 日本人学生との時間
	13	木	31		漢字11-2	P
	14	金	32		漢字12-1	コンピューター
	17	月	復習		漢字12-2	文法 ビデオ
	18	火	33		漢字13-1	コンピューター
	19	水	試験5		漢字13-2	P ビデオ 日本人学生への指導
	20	木	34		漢字14-1	P
	21	金	35			書道
	24	月	36		漢字テスト6	試験5フィードバック ビデオ
	25	火	37		漢字14-2	コンピューター
	26	水	コンサルテーション5		漢字15-1	田上小学校見学 日本人学生との時間
	27	木	38		漢字15-2	P
	28	金	復習		漢字テスト7	ビデオ コンピューター
	31	月	39		漢字15-3	文法 ビデオ
2	1	火	40		漢字16-1	コンピューター
	2	水	試験6		漢字16-2	P ビデオ 日本人学生との時間
	3	木	41		漢字17-1	P
	4	金	42		漢字17-2	コンピューター
	7	月	43		漢字18-1	試験6フィードバック ビデオ
	8	火	44		漢字18-2	コンピューター
	9	水	45		漢字テスト8	ビデオ 日本人学生との時間
	10	木	49		漢字19-1	P
	14	月	復習		漢字19-2	文法 ビデオ
	15	火	46		漢字20-1	コンピューター
	16	水	試験7		漢字20-2	P ビデオ 日本人学生への指導
	17	木				P
	18	金				P スキー旅行
	21	月				P
	22	火	ドラマ発表会 予行演習			
	23	水	ドラマ発表会			
	24	木	47		漢字20-3	ビデオ ドラマ感想文
	25	金	48		漢字テスト9	文集
	28	月	50 復習		漢字21-1	ビデオ
	29	火	日本語能力試験 復習		漢字21-2	文集
3	1	水	試験8		漢英辞典の使い方	文法 ビデオ 日本人学生との時間
	2	木				文集
	3	金				文集 コース評価アンケート
	6	月	閉講式			

資料12

<第9期(平成11年度 後期) 授業時間割>

	1時限目 8:50~10:20	2時限目 10:30~12:00	3時限目 12:50~14:20	4時限目 14:30~16:10
月	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	文法 ビデオ
火	発音練習 書き取り 前課の復習 導入・練習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター
水	試験 コンサルテーション	文法 ドラマ	タスク活動 文字学習	日本人学生との時間
木	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	ドラマ
金	発音練習 書き取り 前課の復習	導入・練習	タスク活動 文字学習	コンピューター